

ひのまちトーク 2023 報告書



日野市企画部地域協働課

開催の経緯

地域懇談会の参加者等から、自治会同士の交流や情報交換の場の要望が多数あり、令和3年度から自治会交流会を開催しています。今年度も開催にあたり、市主導ではなく、自治会主導での交流会とするために交流会の内容や企画・運営にいたるまでを一緒に行っていただける、自治会員を広く募集し、12名の応募があり、交流会へ向けての運営委員会を1月からスタートしました。

また、昨年からは、『もっと親しみやすい名称にしよう』との意見により、『自治会交流会』から『ひのまちトーク』と名称を変更しました。

目次

1. 開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3ページ
2. ひのまちトーク 2023 当日の様子・・・・・・・・・・ 4ページ
3. 第1部 基調講演 放送大学 玉野教授・・・・・・・・・・ 5ページ
4. 第2部 交流会にて出た意見・・・・・・・・・・・・・・・・ 5ページ
 - 防災ブース
 - 防犯ブース
 - 未来の自治会活動ブース
 - 自治会何でも交流ブース
5. アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11ページ

1. 開催概要

ひのまちトーク 2023（自治会交流会）

開催日 令和5年6月10日（土）

開催時間 午前10時～正午

会場 南平体育館

1 ひのまちトークの目的

今回の「ひのまちトーク」は、～シン・ジチカイこれからの自治会とは～と題し自治会員の高齢化や役員のなり手不足、加入者減少などについて今後、自治会はどのような活動を行えば良いかなどを考え行動できる一助になることを目的に開催しました。

2 第1部 基調講演

放送大学 都市社会学・地域社会学 玉野 和志 教授

～自治会の抱える課題にどう向き合うか～

※基調講演内容を市の公式 YouTube チャンネルで放映しています。

日野市ホームページ ID：1023648



3 第二部 交流会+地域交流ブース

（交流会）4つのテーマに分かれ交流会を実施

（地域ブース）5つの地域交流ブースを開設

4 当日の流れ

○市長挨拶

○【第一部】基調講演

○【第二部】交流会 + 地域交流ブース

（交流会内容）

①防災

②防犯

③未来の自治会活動

④自治会何でも交流

（地域交流ブース）

①自治会 LINE 活用 ②スマホ講座 ③社会福祉協議会 ④防災安全課 ⑤バスターフラッシュ（ご当地ヒーロー）

5 主催

ひのまちトーク 2023 運営委員会（共催 日野市企画部地域協働課）

6 当日配布資料

・プログラム

日野市公式 HP > くらし・手続き > 自治会・市民活動 > 自治会 >

ひのまちトーク 2023 ID：1023648

2. ひのまちトーク 2023 当日の様子

1 参加者数

開催日時	参加人数(人)
令和5年6月10日(土) 午前10時～正午	116



3. 第1部 基調講演

放送大学 都市社会学・地域社会学 玉野 和志 教授

～自治会の抱える課題にどう向き合うか～

※基調講演内容を市の公式 YouTube チャンネルで放映しています。

日野市ホームページ ID：1023648

自治会の皆様、今後の活動を考えるために役員会等で是非、視聴をお願いいたします。
また、DVDの貸出しも実施しています。



4-①. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ①防災

担当委員：平井(奈)(鹿島台自治会)、平井(幸)(鹿島台自治会)

○LED 電球を活用した高齢者見守り事業(鹿島台自治会の事例)

- ・LED 電球内に SIM(通信機能)が入っており、毎日使う場所(玄関、トイレなど)に電球を取り付けるだけで、点灯状況を自動で感知し、長時間点灯または不点灯の場合、メールで連絡が届くようになっている。
- ・地域の人(民生委員や防災会役員、自治会班長など)が緊急事態に駆けつける体制づくりができれば、自治会内での見守り事業ができる。
- ・東京都の地域の底力発展事業助成を活用。

○防災資機材の充実

- ・防災倉庫の棚卸しをして、所有している防災資機材の確認をして、不足物品の把握を行った。
- ・不足物品の購入にあたっては、一般財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業を活用。
- ・揃えた資機材を活用できるように、今後実践訓練をしていく予定。

○台風の水害対策

- ・低地にあるため、地域に防災に対応した公園(かまどベンチ)や水害に対応できる防災拠点施設を市に働きかけを行った。
- ・都の助成金を活用して、発電機などの避難所として活用できる備品を購入した。
- ・地域で自分たちの身を守るための策を、自分たちで考えていく、作っていくことが必要。
- ・水害時に垂直避難を勧められるが、一度氾濫してしまうと二週間程度水が引かない。高台に逃げる必要がある。
- ・日野市は地形的に、水害や土砂災害など、それぞれ強い地域・弱い地域がある。日頃から自治会同士の繋がりを築くことで、お互いに支援体制を築くことができるのではないかと。
- ・現在いる場所を、簡単にお知らせするシステムがあると良い。

○避難行動要支援者

- ・災害時に助けてほしいという意思表示をしている高齢者や障害者の方のリストを、協定を結ぶことで、自治会や自主防災会で共有し、地域での助け合う体制づくりができる。
- ・自力で避難できない人への対応をどうしたらよいか悩んでいる。自治会だけでは難しいかもしれないが、誰かが支援しなくてはならない。
- ・過去の台風時に、日頃の繋がりが、避難用にバスを出してくれた、避難所がいっぱいだった際に保育園を開けてくれたという事例を聞いた。自治会同士、平常時からの横の繋がりが大事。

4-②. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ②防犯

担当委員:稲基(高山自治会)、伊東(多摩平三丁目南自治会)

【防犯カメラ補助事業について】

- ・高山自治会では防犯対策として、「外灯防犯カメラ補助事業」を活用して自治会内に防犯カメラの設置を進めている。
- ・東京都 50%、日野市 33%の補助率で、自治会負担が 17%で設置できる。
カメラの維持費は1台あたり1万円/年間で、主に電気代と東京電力への電柱借用料となっている。
- ・補助金による補助はイニシャルコストに対してのみで、ランニングコストに対しての補助は無い。
- ・防犯カメラは電柱の上に設置するものになるが、電気の使用量が多い、大きなマンションや工場があるところの電柱付近には設置出来ないなどの制約がある。
- ・高山自治会では防災安全課より、5台分の補助枠をうけることとなっている。

【防犯カメラ以外の防犯事業について】

- ・日野市ではパトロール用の青いベストが無料で貰えたり、1回限りだが防犯グッズの購入に対して10万円の補助がある。
- ・交通安全スクールガードという制度ではオレンジ色のベストや腕章、名札などが貸与される。

【参加者からの質疑応答】

Q:維持費はカメラが設置されている限りかかるのか？

→1台につき1万円が設置される限り、カメラを外すまでかかる。

Q:高山自治会では防犯カメラの設置を何年前からやってるのか？

→昨年の8月頃から情報収集をし、まだ正式な申請は行っていない。

申請には書類を揃えるだけでなく、住民の合意も得なければいけない為、早くても今年の年末頃になる見通し。

Q:カメラの保証期間はどのくらい？

→7年間、保証期間に故障した場合は修理対応が受けられる。

Q:台数が5台とのことだが、その根拠は？

→市内の自治会の申請状況に応じて台数が決定する。

Q:10万円の補助金は自治会若しくは自主防災会が物を買う時に貰えるのか。

→予め防災安全課に相談した上で、防犯グッズを購入するときに貰える。

Q:自分の自治会(参加者)でも防犯カメラの設置を検討しているが、規約を作成するのが大変そう。

→規約の雛型を防災安全課からもらい、それに倣って作成することが出来る。

Q:現在設置を検討しているが、自治会に対してどういう風に話を持っていこうか迷っている。

→一番大事なのは住民の合意。特にカメラに映る可能性のある家の住民には必ず事前に許可を得る必要がある。

Q:どのくらいの値段のものを購入したのか。

→約30万円のものを購入した。

Q:防犯カメラはどのような仕様のものなのか。

→カメラは10日間記録がされるもので、日々上書きがされている。

【参加者からの意見】

- ・これからはこうした補助金を活用してどんどんやっていくべきだと思う。
- ・今日のお話を聞いて自分の地区でもぜひ補助金を活用して設置を検討したいと思う。

4-③. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ③未来の自治会活動

担当委員:前田(下田自治会)、中村(康)(黒川自治会)、山口(北原自治会)

【みなさんどのような困りごとがありますか?】

- | | | | |
|------|--------|----------|------------|
| ・輪番制 | ・役員負担 | ・退会者増 | ・新規加入者が少ない |
| ・高齢化 | ・後継者不足 | ・イベントが大変 | |

⇒どこも共通。

- ・輪番制というシステムが残っているが、これが大変。誰も喜んでいない気がする。
- ・下田は輪番制を止めた。やりたい人の拳手性。継続 OK だと、制度改革にも着手できる。
- ・班長は持ち回りだが、役員はあまり変わらず。でもベテランがサポートする体制が出来ているから若い人も入っているし、会長の独裁にはならない。

【自治会の必要性について】

・あったほうが良いというのはもちろんだが、一部の仕事に関しては本当に必要か分からないと思いながら会長職を1年続けてきた。

【仕事の削減・簡素化について】

・全員にアンケートをとった。いま自治会で行っていること(イベント・回覧板などの事務・総会・祝い金制度など)全てを一旦挙げてみて、これが必要かそうでないか、また、自分がやりたいかやりたくないか、答えてもらった。

この結果、実はみんな必要だと思ってない仕事判明した。これはみんなの総意でやらなくていいということで削減できるし、「必要だがやりたくない」ということも、「誰かに負担を押し付けるくらいならやらなくていい」ということで削減する。

誰かに無理してやらせるという方が、役員のなり手不足や新規加入減少につながり、将来的には先細りしていくことにつながると思う。「もっと仕事を減らして楽になろう」と自分が役員の時に言うのは大変だが、大事なことだと思う。

・学校の PTA も似たような状況だと思う。先生も仰っていたように昔は専業主婦も多く、なんとかなっていたが、共働き家庭が増えてきた現代にはそぐわないと感じる。

・私は自治会役員だけでなく、地域活動やボランティアもやっているが、こういうものは少しでも楽しむ気持ちが無いと続かない。また、負担が増えすぎてもいけない。今でも毎日へとへとだが、地域のためになるとか、少しでも楽しい瞬間があるから続けていられる。

・自治会の必要性については、やっぱり災害の時には必要性を感じる。顔が分かっている、多少連携が取れて、ということは大事だし、だから自治会を無くすことはいけないと思う。

・しっかりと民間のお仕事をやって、空き時間で自治会も存続させていくっていうのは本当につらくて大変なことで、そこまでしてやらなくちゃいけないのかな?とこの頃正直思う。

・防災のこともそうだが、行政に話をするときも、個人の話と言うより、地域に住む住人達の意見として、自治会総意で訴えるというのは大事なことで効果もあると思う。

【新規加入者について】

・うちのところは若い人も入ってくれることがあるが、辞める人も多い。自治会が従来やっていた、祭りには強制で出させられて、いろいろ仕事を押し付けられるようなことがあると逃げて行っちゃう。せっかく入ってくれた人が出て行ってしまうという状況が今年初めて会長になってわかった。なんとかしなきゃいけないと感じている。

・濃いつながりの必要性も十分に承知しているが、それ以外に、あまり干渉されたくないが薄くゆるいつながりは持っておきたい、というニーズにも応えられる運営をしたいなと思っている。あまりできていないけど。

・下田自治会は「サポーター／アドバイザー制度」をつくった。最初は年に1回のお祭りの日の受付とか、モノを運ぶ手伝いだけいい。そういう負担の少ない所から、少しでも自治会活動の楽しさを感じてもらいたい。だんだんとステップアップして、班長や役員とかになっても、またアドバイザーとなった経験者やベテランに助けを求めやすい仕組みがあるため、役を引き受ける不安が軽減される。

【自治会のノウハウ共有について】

・今日せっかく顔見知りになれた。下田はお祭りもずっとやってきたし、いつもたくさん人が来る。運営のノウハウは持っているつもりだし、道具なんかも持っている。

皆さんが何かそういうことがしたい、となった場合にはご相談いただければ、アドバイスもできるし、都合が良ければお手伝いできるようなこともあるかもしれない。

・自治会の中にはボランティアセンターに寄付をしてくれているところも多いが、特典で色んな備品を借りられることをみんな知らない。もっと活用したらいいと思う。地域協働課でも机とかプロジェクターとか無料で借りることが出来る。

・今日来た人はみんな自治会仲間だから、今後も連絡取り合って協力できたらいいですね。

4-④. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ④自治会何でも交流

担当委員:中村(輝)(第二豊田荘自治会)、壺井(滝合自治会)、熊本(京王平山住宅地平山二丁目自治会)

・皆様と共に課題を共有し、考えていきたい。

【参加者の方から出た課題やご意見】

・自治会全体で協力していく体制がなかなか作れない。「役員の活性化」が問題。

・同じ人がずっと役員をやるのは問題。

・代理で参加した役員決定のくじ引きで、とても嫌だったが会長になってしまった。

・イベント等に追われ、分からないことだらけ。分からないのに、他の人に聞かれてしまう。「分からないことは聞けばいい」と言われても、何が分からないのかも分からない状況でしんどすぎて悩んでいる。

・やる気のある人とやりたくない人との間で板挟み状態。

・今日のひのまちトークは参加するつもりはなかったが、気持ちが落ち込みすぎており、家族の方から悩みだけでも吐き出してきたらと声をかけられて参加した。

・会長になった時にしっかりとした引継ぎが受けられない。(10分くらいで終了した)

- ・回覧等の書類が沢山届く。鍵の管理、防犯カメラの手続き等もあり常に歩き回っている。
- ・男性の役員がいない、フルタイムの方も多く副会長の代わりもしないといけない。
- ・所属している自治会は輪番制ではない。輪番制にしようと思っていたが、今日の話聞いてあまりにも輪番制が大変そうだったのでまた考えている。
- ・玉野教授が「好きな人がやればいい」と仰っていたが、そうはいつでも 300 世帯以上ある自治会なので、「住民のために何かしてあげたい」という気持ちもあり、そこが目標になっている。
- ・解決したいことがあり役所にいっても事が進まず、何年も動いてやっと進むことがある。
- ・今日の交流を踏まえ、自治会活動をプラスにとらえられたら。
- ・パトロールを協力して行う等、協力体制はある自治会だが、それでも役員の活性化は大変なことだと感じている。なり手がなくて困っている。
- ・核家族化、ひとり暮らしの突然死等の課題に直面している。役所に相談しても、最終的には個人で動いてくださいと言われる。足を使って安否確認を行っている。
- ・防災委員会を立ち上げて、最近役員を固定性にした。
- ・「無理するな」という玉野教授の話には、大変共感する。やりたくなければ、自治会はやめればよいと思う。顔を合わせる機会を作るのが難しいが、合わせられるときに住民の顔を見て、やれる人達でやれることをやろう。無理するなと言われて気が楽になった。
- ・輪番制&互選体制。役員の負担を少なくしようという流れができており、比較的安心して役員を引き受けられた。
- ・自治会内での相談は必要だが、回覧回数を月2⇒1回に減らそうと考えている。
- ・玉野先生の話も回覧して「皆さんが自治会活動を気軽に続けられる方向に意識を変えていければ」と紹介したい。役に立つ内容だった。
- ・輪番制だと役員を決めるのが大変。高齢者や仕事をしている人がほとんど。役員になるならやめますとやられてしまう。
- ・コロナ禍では、前例もなく何をすればいいか模索しながら悩んだ。Zoom で定例会を行ったりした。
- ・玉野教授の話で、自治会活動は無理してまでやる必要はないのだと目が覚めた。
- ・コロナ禍でやらなくてもよかった、やれなかった仕事が沢山あった。そういう仕事をもうやめてスリム化を図るのがいいのでは。
- ・やらなくてはならないという義務感で頑張っていたが、あまりやりすぎると次の人にプレッシャーを与えてしまうことになる。
- ・やりたい人もそうでない人もいるのは、しょうがない。やれる人が頑張るのが良い。
- ・事務局制にするのもあり。
- ・防災訓練の実施等で近くの自治会との連携を図ることも大事。
- ・他の役員と協力し全体で動ければ、会長の負荷は少なくなる。一人で抱え込まないようにできるとよい。
- ・以前加入していた自治会では、やりたい人とやりたくない人の温度差があった。顔を合わせる機会がないと自治会活動の意義がないと思っていたので、役員を辞めて体制が変わった後、求めている地域づくりではないと感じて自治会を辞めた。
- ・やめると、外と繋がる機会がなくなった。自治会に加入する意義も正直、実感した。
- ・無理なく楽しく運営していけるのであれば「自治会」という形でこれからも残っていくのでは。

【下田自治会より、サポーター・アドバイザー制の紹介】

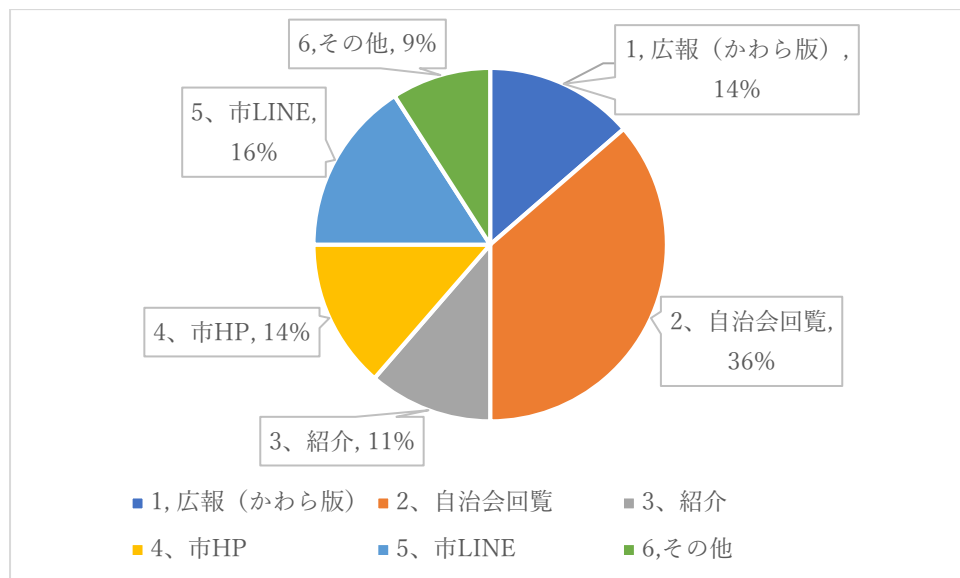
・自治会に入る前に負担をかけないように、サポーターとアドバイザーをもうけている。お祭り等のイベントがメイン。自治会活動に参加しやすくなるよう、住民との関わりを経験してもらう目的もある。サポーターは毎年数名参加。

【まとめ、ひのまちトークの感想、今後について】

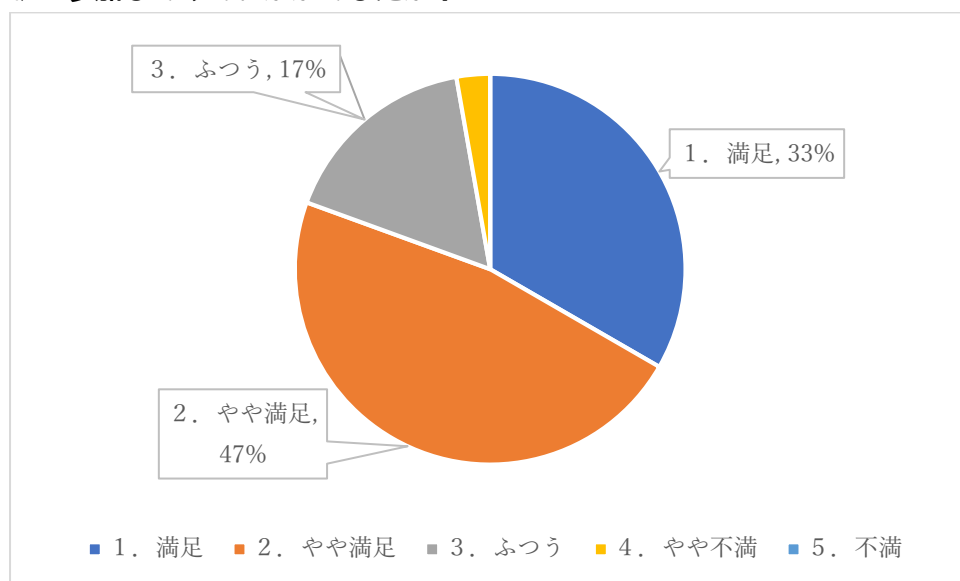
- ・役員の活性化、どうやって事務を引き継ぐか等課題に感じているところは自治会共通。
- ・地域協働課から声掛けしてもらって地区に限らず連携できるような場を作れないか。
- ・ひのまちトークで「為になった」と思っている、課題を持ち帰って自分の自治会に落とし込むのが難しい。
- ・年に一度のことに限らず、日々活動する中で解決していかなくてはならないことを共有したい。
- ・やらねばならない会議ではなく、気軽に共有できる場を作りたい。
- ・今回のひのまちトークは、気持ちを出せた場所。
- ・ほかの自治会の情報を聞く場、共有する場をもっと作ってほしい。
- ・メインサポーターを設けて「自治会を考える会」のLINEを組みたい。Zoomでも対面で集まるのもいい。
- ・交流会にでると、「一緒に解決できたらな、寄り添えたらな」という気持ちになるが、実際に一緒にできる仲間がない。自分の自治会に落とし込めないジレンマを感じる。
- ・色々な価値観を持っている人同士で、自治会の仕組みをフリートークできる場、悩み相談できる場を継続的に作っていければ、日野市の地域コミュニティの活性化につながる。

5. アンケート結果

Q1 今回のイベントを何でお知りになりましたか？



Q2 参加してみたいかがでしたか？



Q3 興味深かった内容がありますか？（複数回答）

第一部 基調講演 71%

第二部 交流会 26%

地域ブース 3%

Q4 第四回があれば参加したいと思いますか？

1. 思う 34人 2. 思わない 2人

Q5 次回の交流会の企画・運営委員として参加したい

6人 (ありがとうございます)

Q6 今後の「ひのまちトーク」で話したい・聞きたいテーマはありますか？ (一部抜粋)

- ・今回の「なんでも交流会」ブースは、正直で活発で発展的な意見交換があって楽しかった。
- ・自治会の継続
- ・玉野教授の紹介された「立川市自治会等を応援する条例」
- ・テーマとしては「お祭り」「交流イベント」のノウハウ共有。
- ・簡単な自治会について
- ・都営住宅なので空き部屋、高齢化（認知症）対策など。
- ・新規加入者の勧誘、加入率UP
- ・自治会に未加入の人たちに諸々の報告をどう伝えるか。市単位の行いを知らせる方法、参加をどうつづけるか。
- ・今回の様な基調講演は良かったので続けてほしい。
- ・自治会をどうしていくか。

Q7 本日の感想・ご意見など (一部抜粋)

- ・無理しない事、楽しくやる事、共有すること、他自治会との連携が大事である事が分かってよかった。
- ・自治会のおかれている状況、課題を知りたく参加しました。良い学びの場となりました。
- ・普段考えない自治会の事を知れて良かった。
- ・まだまだ悩みは多いですが、少し楽になりました。
- ・基調講演より2部の交流の時間を増やしたらもっと良かった気がします。
- ・交流できて良かったです。
- ・参加者が多く来ていただき良かったです。今後も南平体育館を利用してください。
- ・今後の自治会を考える中、「最も求められるのは行政の発想の転換」という事を1部の玉野教授が話されていたのが印象的だった。
- ・交流会ももっと細分化していいと思います。行政はどう考えているのかを説明してほしい。
- ・先生のお話が行政や市長向けの諫言が多かった。機会があれば、次回は自治会の担い手に元気を与えるお話の時間を多くしてほしい。
- ・好きな人同士でコミュニティを作れば良いと感じた。
- ・各自治会の話ばかりで交流とは言えない。
- ・皆、話しが長いようなので、もっと時間を取った方がいいのでは？
- ・行政の意見を取り入れてほしいと思います。
- ・玉野先生のお話は自治会としても少し肩の荷がおりたような気がします。
- ・貴重なお話ありがとうございました。

- ・自治会への参画について、基調講演が参考になった。
- ・大型マンションが日野市は沢山増えて来て、それぞれ抱えている問題もあると思います。大型マンション同士で交流が持てる様な機会が欲しいと思います。
(我々のマンションでは自治会=自主防災ではなく自主防災は管理組合となっているので、自治会加入は不要と考えている方が多いのです。)本日はありがとうございました。
- ・基調講演が良かった。気持ちが楽になった。
- ・スピーカーの音、聞きづらい。台の上へのせては。
- ・基調講演はとても参考になり、自治会長なりたての私にとってありがたかったです。特に参考になったのは、がんばりすぎない・・・無理して自治会活動を活性化させようとしない。親睦会は有効・・・など。
- ・ある程度理解した。